

P24877.P04

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant : Hiroshi SOGABE

Serial No. : Not Yet Assigned

Filed : Concurrently Herewith

For : THUMB PICK FOR GUITAR

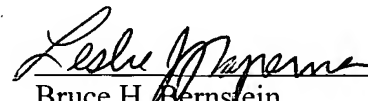
CLAIM OF PRIORITY

Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, Virginia 22313-1450

Sir:

Applicant hereby claims the right of priority granted pursuant to 35 U.S.C. 119 based upon Japanese Application No. 2003-154385, filed May 30, 2003. As required by 37 C.F.R. 1.55, a certified copy of the Japanese application is being submitted herewith

Respectfully submitted,
Hiroshi SOGABE


Bruce H. Bernstein
Reg. No. 29,027 33,329

February 3, 2004
GREENBLUM & BERNSTEIN, P.L.C.
1950 Roland Clarke Place
Reston, VA 20191
(703) 716-1191

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年 5月30日
Date of Application:

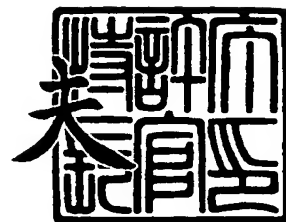
出願番号 特願2003-154385
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP 2003-154385]

出願人 株式会社新上
Applicant(s):

2003年12月 4日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井 康



【書類名】 特許願

【整理番号】 150530P-51

【提出日】 平成15年 5月30日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G10D 3/16

【発明者】

 【住所又は居所】 千葉県柏市花野井 7 5 8 - 7

 【氏名】 曾我部 大

【特許出願人】

 【住所又は居所】 千葉県柏市正連寺 9 0

 【氏名又は名称】 株式会社新上

 【代表者】 曾我部 大

【代理人】

 【識別番号】 100066223

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 中村 政美

 【電話番号】 03-3614-3470

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 063131

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】

明細書

【発明の名称】 ギター用サムピック

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ギター用のピック体と該ピック体を指に固定するベルト体とから成るギター用サムピックにおいて、ピック体は、親指に接触する基端部分から弦を弾く突出部分が一体に延長され、ベルト体は、前記ピック体と別体に形成され、ベルト体の両端部をピック体に長さ調整自在に連結することを特徴とするギター用サムピック。

【請求項 2】 前記ピック体の突出部分から基端部分にかけて屈曲された切込みを設け、該切込みの内側に形成した略舌片状の連結片と前記ベルト体の一端部とを着脱自在に連結した請求項 1 記載のギター用サムピック。

【請求項 3】 前記ピック体の基端部末端に、親指の側面に沿った屈曲部を形成し、該屈曲部の端部から突出する係止突起を設け、該係止突起に前記ベルト体の端部を長さ調整自在に連結する請求項 1 又は 2 記載のギター用サムピック。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ギターを演奏する際に、親指に装着して使用するギター用サムピックに関する。

【0002】

【従来の技術】

ギターの演奏に用いられるサムピックは、例えば、ベースランニング奏法や、スリー・フィンガー奏法その他、5 弦バンジョー、リゾネーター・ギター、スティール・ギター等の演奏にも用いられている。サムピックの材質は、セルロイド等のプラスチック製や、金属製、亀甲製などが使用されている。

【0003】

従来のサムピックは、弦を弾く爪部分と親指に巻き付ける固定部分とが一体になった形状を成している。このため、演奏時の指の発熱や発汗によってサムピッ

クの位置がずれてしまう不都合があった。また、既成のサムピックから指に合ったサイズを選択して使用するの、指からずれないようにするには、少しきつめのサムピックが使用され、既成のサムピックでは指が痛くなることがある。そこで、親指に巻き付けて固定する構造のサムピックが特許文献 1 で提案されている。

【0 0 0 4】

特許文献 1 のサムピックは、ベルトの両端に大小 2 個のつめを設けると共に、このベルトの一端部を挿入する差し込み口をベルトの他端部に設けたものである。使用時には、親指に巻きつけたベルトの一端を差し込み口に挿入し、この挿入したベルト側面に突設された突起を差し込み口に係止して固定する。

【0 0 0 5】

一方、特許文献 2 にベルト式琴爪が記載されている。このベルト式琴爪は、指に巻き付ける長さ調節自在のベルトを設け、このベルトの内側に、滑りにくい素材でできたポケットを設けたもので、爪片の根元部をポケットに差し込んで演奏する。このベルト式琴爪によると、演奏中に指から外れたり、ゆるんだりせず、また爪片の取り付け角度や深さを自在に容易に変えられる利点があるとされている。

【0 0 0 6】

【特許文献 1】

実開昭 5 4 - 1 5 1 3 2 6 号公報

【特許文献 2】

特開 2 0 0 2 - 4 1 0 3 1 号公報

【0 0 0 7】

【発明が解決しようとする課題】

特許文献 1 に記載されたサムピックは、前述の如く、弦を弾く爪と、親指に巻き付けるベルトとを一体にして形成しているので、爪とベルトの材質は同じ材質になる。この結果、弦を弾く爪として好適な材質と、ベルトとして好適な材質とを使い分けることができなくなる。例えば、爪として好適な材質は、セルロイドや、金属、本鼈甲など、弦を弾く為に硬質で張りのある材質が適している。一方

、ベルトの材質は、親指に巻き付け易いように柔軟な材質が適している。このように、爪とベルトは、機能的に相反する性質の材質がそれぞれ適するので、爪とベルトとを同じ材質で形成した場合には、いずれか一方に適した材質を選択するか、あるいは両方の機能に、ある程度妥協した範囲の材質から選択することになる。両方の機能に妥協する材質とは、言わば、両方の機能が低下する材質であることを意味する。

【0008】

更に、特許文献1のように、親指に巻きつけたベルトを、突出した爪の基端部に固定すると、爪の弾力性が損なわれてしまい、従来から使用されているサムピックのような適度な弾性が得られなくなる。すなわち、従来から使用されているサムピックにおいて、突出した爪は、この爪の基端部に至るまで連続形成されており、この基端部が突出した爪と一体となって爪の弾性力を幅広く調整できる構造になっている。しかしながら、特許文献1のように、突出した爪の基端部をベルトで固定すると、基端部の弾性力が爪に伝わらなくなり、従来のような弾性力が失われ、使い勝手が極めて悪くなる不都合が生じる。また、サムピックを装着した指に、ベルト体2を介して過度のショックが加わるので、指が痛くなる虞もある。

【0009】

また、特許文献1のベルトは、爪の基端部に設けられた前記差し込み口に通した後、親指の側面を巻きつけるようにして保持される。しかしながら、サムピックにおいて、爪の基端部分は、爪の弾性力を調整すると共に、最初に弦に接触するピッキング操作上、重要な部分でもある。つまり、振動している弦をサムピックで弾くには、まず、爪の基端部分で弦を押さえた後に爪の先で弾くといった動作になる。このとき、基端部分の面がフラットになっていないと、弦の振動をうまくコントロールできずに、所謂ビビリ音と称する音が発生する。この種の音は、演奏法によってできるだけ発生させない場合や、ある程度必要な音になる場合もあることから、サムピックの基端部分による弦のコントロールは極めて重要な操作になっている。その為、特許文献1のように、爪の基端部分にベルトを巻きつけていると、弦の振動をコントロールすることが全くできず、ギターのサムピ

ックとして使用することは極めて困難である。

【 0 0 1 0 】

一方、特許文献 2 に記載のベルト式琴爪は、ベルトと爪片とを別体に形成しているので、夫々の機能に適した材質を選択することが可能になっている。ところが、琴の爪は、親指、人差し指、中指の三本に装着する際に、夫々指の本当の爪と向かい合うように装着して使用するものである。したがって、琴の爪とギターのサムピックとは、基本構成が全く異なっており、特許文献 2 のベルト式琴爪をギターのサムピックとして使用することはできない。

【 0 0 1 1 】

そこで本発明は上述の課題に鑑み創出されたもので、演奏時の指の発熱や発汗等によってサムピックの位置がずれてしまう不都合を解消し、しかも、ギターの各種演奏法に最適なピッキングが可能になるギター用サムピックの提供を目的とする。

【 0 0 1 2 】

【課題を解決するための手段】

上述の目的を達成すべく本発明の第 1 の手段は、ギター用のピック体 1 と該ピック体 1 を指に固定するベルト体 2 とから成るギター用サムピックにおいて、ピック体 1 は、親指に接触する基端部分 1 B から弦を弾く突出部分 1 A が一体に延長され、ベルト体 2 は前記ピック体と別体に形成され、ベルト体 2 の両端部をピック体 1 に長さ調整自在に連結することにある。

【 0 0 1 3 】

第 2 の手段は、ピック体 1 の突出部分 1 A から基端部分 1 B にかけて屈曲された切込み 1 C を設け、該切込み 1 C の内側に形成した略舌片状の連結片 3 と前記ベルト体 2 の一端部とを着脱自在に連結する。

【 0 0 1 4 】

第 3 の手段は、ピック体 1 の基端部 1 B 末端に、親指の側面に沿った屈曲部 1 D を形成し、該屈曲部 1 D の端部から突出する係止突起 4 を設け、該係止突起 4 に前記ベルト体 2 の端部を長さ調整自在に連結することにある。

【 0 0 1 5 】

本発明サムピックによると、ベルト体2に固定されたピック体1は、突出部分1Aと基端部分1Bとの弾性力を損なわずに使用することができる。また、基端部分1Bによる弦のコントロールも自由に行える。

【0016】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態を説明する。

【0017】

本発明サムピックは、ギターの弦に適した材質のピック体1と、ピック体1を親指に固定するベルト体2とからなる(図1参照)。ピック体1の材質は、従来のサムピックとして使用されているセルロイド等のプラスチック材や、金属材、鼈甲材などが適宜選択される。一方、ベルト体2の材質は、柔軟で、熱などによって伸びずに、指に馴染み易い材質、例えばシリコン樹脂やナイロンなどが好適であるが、皮革材等の天然素材など、他の材質を選択することも可能である。

【0018】

ピック体1は、基本的にフラットな面を操作面として有し、親指に接触する基端部分1Bと、この基端部分1Bから弦を弾く突出部分1Aとが一体に延長されたものである(図2参照)。更に、ピック体1の突出部分1Aから基端部分1Bにかけて屈曲された切込み1Cを設けている。そして、切込み1Cの内側に略舌片状の連結片3を形成し、この連結片3にベルト体2の端部を連結する(図2、3参照)。この切込み1Cは、ピック体1の弾性力を調整するもので、突出部分1Aに近い部分の屈曲部分から、基端部分1B方向に開放端部が延長された略馬蹄形状を成しており、ピック体1の長手方向に沿って長く形成するほど柔軟な弾性力が得られる。切込み1Cは、図示例の略馬蹄形状のほか、略コ字型や略く字型など任意に変更できるが、いずれにしても、屈曲された切込み1Cの開放端部が基端部分1B方向を向くように形成する。また、連結片3の形状も、この切込み1Cの形状に沿った舌片状になる。更に、切込み1Cの形状と連結片3の形状を変えて形成することも可能である。

【0019】

図示の切込み1Cには、更に各演奏者が好みに弾性力を調整できるようにする

ために、切込み 1 C の開放端部に切込み補助線 1 E を併設している(図 3 参照)。この切込み補助線 1 E は、複数の穿孔を略ミシン目状に形成したもので、演奏者自身が切込み補助線 1 E に沿って切込み 1 C を延長できるようにしたものである。また、ピック体 1 の厚みを薄肉状にして切込み補助線 1 E を設けることもできる。

【0020】

切込み 1 C の内側に形成した連結片 3 は、ベルト体 2 に連結したピック体 1 の弾性力を損なわないようにするものである(図 3 参照)。すなわち、この連結片 3 にベルト体 2 の端部を連結することで、ピック体 1 を固定しながら、前記切込み 1 C と共に、ピック体 1 基端部分 1 B の弾性力を保持する作用がある。図示の連結片 3 は、連結片 3 の屈曲した端部がわ内側に連結フック 3 A を突設し、ベルト体 2 の連結口 2 A を、この連結フック 3 A に連結している(図 2 参照)。この連結構造は、図示例に限られるものではなく、ベルト体 2 を固定できる構造であればよい。

【0021】

一方、ピック体 1 の基端部 1 B 末端に、親指の側面に沿った屈曲部 1 D を形成し、この屈曲部 1 D の端部に係止突起 4 を突設している(図 2 参照)。屈曲部 1 D は、ピック体 1 の端部に連結するベルト体 2 の操作上の影響を少なくしている。すなわち、屈曲部 1 D の端部から突出する係止突起 4 に、ベルト体 2 を連結することで、基端部分 1 B のフラットな面の操作を妨げずに済むものである。図示例の係止突起 4 は、フック形状を成し、この係止突起 4 に、ベルト体 2 の端部を長さ調整自在に連結している。この係止突起 4 も図示例に限られず、他の係止手段を採用してもよい。

【0022】

ベルト体 2 は、親指に巻き付けてピック体 1 を固定するもので、ベルト体 2 の一端に設けた連結口 2 A をピック体 1 の連結片 3 に連結し、ベルト体 2 の他端に複数設けた調整口 2 B をピック体 1 の係止突起 4 に係止する(図 4 参照)。調整口 2 B は、ベルト体 2 の長手方向に沿った複数の開口部からなり、この開口部の位置を選択してベルト体 2 の長さを調整する。また、図示のごとく、複数の開口部

を多数配置することで、これら開口部の拡開状態によって、ベルト体2の締め付け強度を微妙に調整できる利点もある。更に、最適な長さに調整した後は、ベルト体2のいない部分を任意に切除することで、演奏者の指にあった最適なサムピックとして使用できる。尚、ピック体1及びベルト体2の形状や細部の構成は、図示例に限られるものではなく、自由な設計変更が可能である。

【0023】

【発明の効果】

本発明は上述の如く構成したことにより、当初の目的を達成した。

【0024】

すなわち、ベルト体2はピック体と別体に形成され、ベルト体2の両端部をピック体1に長さ調整自在に連結することにより、演奏時の指の発熱や発汗によってサムピックの位置がずれてしまう不都合を解消する。しかも、ピック体1に適した材質と、ベルト体2に適した材質を夫々選択できるので、サムピックとして最適な材質を各演奏者の好みに応じて使用することが可能になる。

【0025】

また、ピック体1の突出部分1Aから基端部分1Bにかけて屈曲された切込み1Cを設け、該切込み1Cの内側に形成した略舌片状の連結片3と前記ベルト体2の一端部とを着脱自在に連結するので、ピック体1がベルト体2に固定されていても、ピック体1の突出部分1Aと基端部分1Bとの弾性力を損なうことなく、ピック体1全体の弾性を演奏に使用できる。

【0026】

更に、ピック体1の基端部1B末端に、親指の側面に沿った屈曲部1Dを形成し、該屈曲部1Dの端部から突出する係止突起4を設け、該係止突起4に前記ベルト体2の端部を長さ調整自在に連結しているので、演奏者の指に合った最適な装着が可能になる。この結果、長時間使用していても、指が痛くなるといった不都合は解消された。

【0027】

しかも、ピック体1の屈曲部1Dから係止突起4を突設し、この係止突起4にベルト体2を連結しているので、ピック体1の基端部分1Bによる弦の操作をベ

ルト体2が妨げずに済み、従来のサムピックと同様に扱うことができるので、各種演奏法に適したピッキングが可能になる。

【0028】

このように、本発明によると、演奏時の指の発熱や発汗によってサムピックの位置がずれてしまう不都合を解消し、しかも、ギターの各種演奏法に最適なピッキングが可能になるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の一実施例を示す装着状態の斜視図である。

【図2】

本発明の一実施例を示す側面図である。

【図3】

本発明のピック体の一実施例を示す平面図である。

【図4】

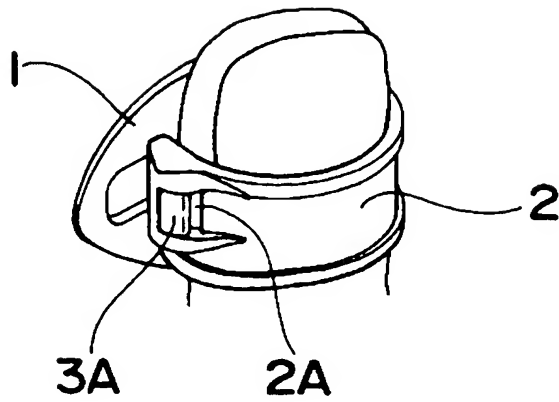
本発明のベルト体の一実施例を示す平面図である。

【符号の説明】

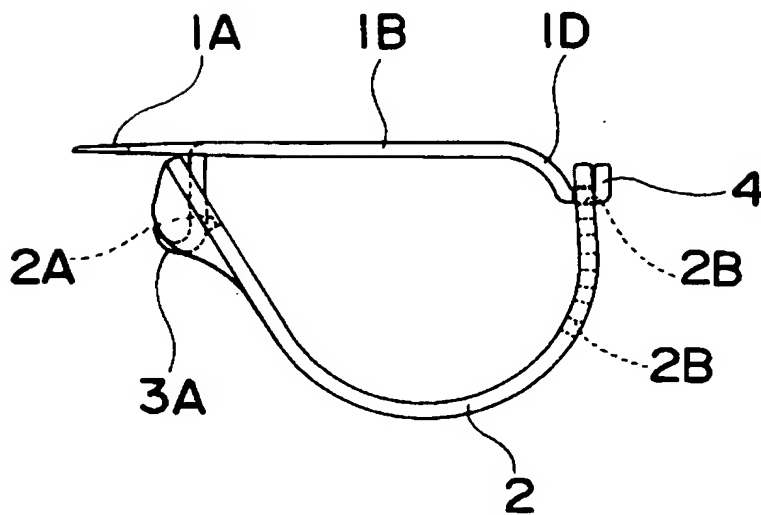
- | | | | |
|---|------|-----|--------|
| 1 | ピック体 | 1 A | 突出部分 |
| | | 1 B | 基端部分 |
| | | 1 C | 切込み |
| | | 1 D | 屈曲部 |
| | | 1 E | 切込み補助線 |
| 2 | ベルト体 | 2 A | 連結口 |
| | | 2 B | 調整口 |
| 3 | 連結片 | 3 A | 連結フック |
| 4 | 係止突起 | | |

【書類名】 図面

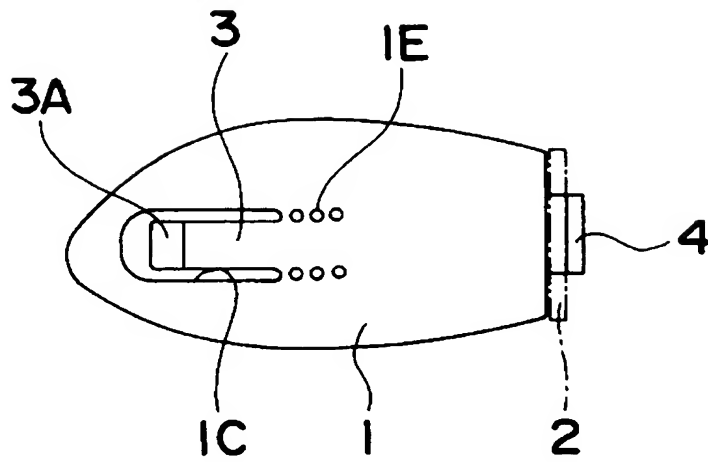
【図 1】



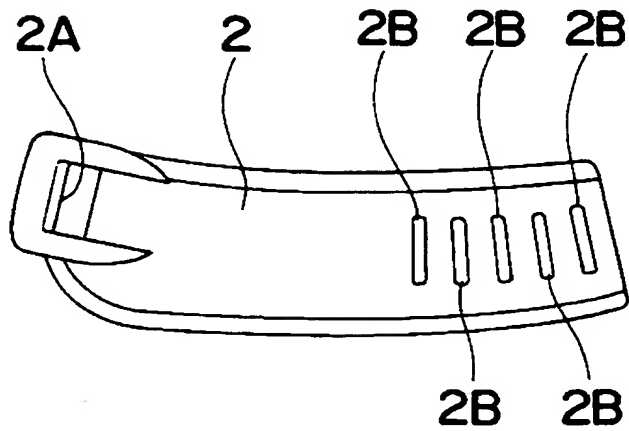
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【書類名】

要約書

【要約】

【解決手段】 ギター用のピック体 1 と該ピック体 1 を指に固定するベルト体 2 とから成る。ピック体 1 は、親指に接触する基端部分 1 B から弦を弾く突出部分 1 A が一体に延長される。ベルト体 2 は前記ピック体と別体に形成される。ベルト体 2 の両端部をピック体 1 に長さ調整自在に連結する。ピック体 1 の突出部分 1 A から基端部分 1 B にかけて屈曲された切込み 1 C を設ける。該切込み 1 C の内側に形成した略舌片状の連結片 3 と前記ベルト体 2 の一端部とを着脱自在に連結する。

【効果】 演奏時の指の発熱や発汗によってサムピックの位置がずれてしまう不都合を解消する。ギターの各種演奏法に適したピッキングが可能になる。

【選択図】

図 2

特願 2 0 0 3 - 1 5 4 3 8 5

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[5 0 3 1 9 6 6 6 2]

1. 変更年月日
[変更理由]

2 0 0 3 年 5 月 3 0 日
新規登録

住 所
氏 名

千葉県柏市正連寺 9 0
株式会社新上